

フラワーガイドの組野一弘さん。趣味のカメラで写した「原生花園と列車」のパネルがインフォメーションセンターに展示されている。



黄色いジャンパーが目印
原生花園フラワーガイド

「エゾキスゲはね、夕方に咲き始めたら次の日の昼くらいでしぼむ、一日限りの花なんです」「目立たないけどハマニクはエライですよ。砂丘に長い根を張って砂が舞い上がるのを防いでくれます」

お話を聞いていると、目の前の風景がより色鮮やかに見えてくる。原生花園フラワーガイドの1人、組野一弘さん、今年で活動4年目を迎える。フラワーガイドの時期は6月15日〜7月15日の10時〜15時。現地に1〜2名が常駐している。団体客は観光協会に事前申し込みが必要だが、「個人の方は私どもの黄色いジャンパーを見かけたら気軽に声をかけてください。ご案内します」。まちの魅力発信に一役買っている。



小清水町字浜小清水
TEL 0152-63-4187

レンタル自転車の窓口あり
インフォメーションセンター
Hana

JR原生花園駅隣接の観光施設。インフォメーションルームに設置された大型スクリーンで、原生花園に咲く花々の開花時期や特徴を知ることができ。レンタル自転車の窓口もあり、JR原生花園駅からJR浜小清水駅とJR北浜駅へは、どちらも自転車約20分。約8kmのベルト状に伸びている原生花園をフルに楽しめる。



Treasure in the Name of Diversity - Facilities
Koshimizu Primeval Flower Garden has volunteer flower guides and Information Center Hana. In 1981, Okhotsk Sanctuary was established as a national trust movement.

1978（昭和53）年、自然環境等を守るナショナルトラスト運動の一環として、オホーツク海に面した止別川河口付近の山林原野23haを、地元農家ら18人が結成した「小清水自然と語る会」が購入。1981（昭和56）年に「オホーツクの村」を開村した。

秋が来れば年1度の村まつりが開かれる。「鳥やけものたちが主役の村があってもいい」。開村当初の想いは今も村民たちに受け継がれ、子どもたちに自然の楽しさ、尊さを伝えている。

野生動物が主役の村
オホーツクの村

小清水町字浜小清水203-1
TEL 0152-63-7723



4

渡り鳥の
オールスターが集結
ラムサール条約登録湿地

原生花園の遊歩道から瀧沸湖に目を向けた川崎さんが「おっ」と声を上げた。杭の上にオジロワシを発見したらしい。促されて望遠鏡を覗いた観光客の男性が「貫禄があるねえ」と感嘆の声をもらした。

遊歩道から湖側の展望牧舎に移動すると、海岸とは異なる湿地の世界が待っていた。海水と淡水が混じり合った。瀧沸湖は「東側は徐々に淡水が多くなりフナやコイが増えってくる。冬、湖が氷結すると窒息して湖面に浮かび上がってくるコイをオジロワシが狙う光景が見られます」

渡り鳥の重要な飛来地として2005年ラムサール条約登録湿地になった瀧沸湖は、タンチョウや町の鳥でもあるオオハクチョウなど「鳥のオールスター」が集まるバードウォッチャー憧れの地。12時間で観察できる野鳥の種類を競う「バードソン」にも最適で、「今年は瀧沸湖を含む町内で71種類見つけました」と里実さんが教えてくれた。



5

4. 瀧沸湖は周囲約30km。250種ほどの鳥類が確認されている。
5. 展望牧舎の草屋根にもエゾスカシユリやワレモコウが咲き、鳥たちのえさ場になっている。
6. 湖畔では古くから牛馬の放牧が行われ、6〜10月頃まで牧歌的な風景が楽しめる。
7. 夕陽に染まる瀧沸湖。鳥たちもねぐらに帰る。

この日まわった原生花園周辺だけでなく、小清水の豊かな生態系は、1000mの藻琴山や防風林一帯にも広がっているという。山と森、海と湖を有する大自然の共演にまた会いに来る。瀧沸湖の風にそう約束した。



7



6